



初學訓

三

□ 9
4457
3



29
4457
3

初学割卷之三

具原篤信著

人とかうていふけりた何なり其父兄とて
人の其子弟に書紙よはと道と学ハ一也
一ノ学問乃道ハ他ナク一ノ紙志ヲて若
無紙的ニくたつら若紙紙ハ無紙去に
ありあよ君子の学問ハ仁を紙志ヨラは
紙よの若紙紙ハと宗ヲ守若と紙ハこれハ
博学くわくがくありて経傳けいでんハ明あきらつたれも其用の多

初學川三



たりて夫人の言はれ人の其をこころに
 志すれどもまじい先ての申すまじく^{ちが}つた
 言はれ^た志あれ^い其分よ^{ちが}はれて其功
 多し^た故し^し学問と^る人の只は^ひよ言はれ^る
 小志ありて曰く言はれ^しとつ^てあ^ること^一
 言はれ^し道のまじ^く孝弟を奉^として人倫と
 わ^つつ^て終^つて^一ち^がら^うあ^らは^れる^くは^こ
 言はれ^しと^いい^い貪^ん賤^んあり^て下にあり^しと^いい^い其
 身に志^する^て言はれ^しと^いい^い人倫とわ^つく

して決^しての鳥獸^と真^ん単^だ本^ん中^んでもあ^られ^る
 け^して^一是^れ言はれ^し人^の次^の身^{なり}
 学問と^る人のまじ^くは^れる^を奉^として言は
 れ^るて^一子^はは^れる^を言は^れる^を言は^れる^を
 先^に去^つて^一学問^乃道^言は^れる^を言は^れる^を
 心^を守^つて^一言は^れる^を言は^れる^を言は^れる^を
 心^を守^つて^一言は^れる^を言は^れる^を言は^れる^を
 去^つて^一言は^れる^を言は^れる^を言は^れる^を
 をあ^られ^ると^いい^い其分よ^{ちが}は^れて^一人^の倫^{なり}

とくし其位は高く人とうやまよへりこれ
 忠教の二つとて一人は師の方なほたり
 吾れ行ふ忠教のなほ存するも其人の
 志を以て忠教は厚薄あり
 学問とて道とて人事を以て年々
 を行ひて人を忠しむるも其れ以て事
 とすへし是学問の要とする事なほは
 ちげり也其れあては君子とて人事を
 とらぬ以て志とて人志を以て事才学

乃ふふと用ひ是を以て人ばうやま
 人をあまうる者書紙よはる所より
 さはくつて無くたりしとゆきり是君
 子とて人事をこの事とて小人とて人
 事を以て人書を以て人志を以て人
 小人とて人事は口を以て人志を以て
 人志を以て人志を以て人志を以て人
 かりくは学問にせざるも志を以て人
 りてはよめて学問にせざるは人ハ

よつて食せざばりぬし食は日用の物なり
じせらるるの念より人乃過たり

学問乃道の人倫の道を行ひ人とあはれ
めくじをぬくはくちす身とせしむる
ぬく根をぬくは身とせしむる人倫乃
道行われと天下國家の法をくしてたさ
まらば身をせしむるは道は易に所謂見
善則遷有過則改とぬく要とくつ身
る久つとぬく人とせしむるはくち人乃

若んてせしむるは過われとも改めば是
に向道志たぬ人なり左傳曰人非聖人
誰之過過而能改善莫大焉論語曰過
則勿憚改尚書曰改過不吝やうといお
しとつとぬくはくちす身とせしむる
一孝問の道他なり一過とせしむる改
め若んてせしむるはくちす身とせしむる
をぬくはくちす身とせしむる過を
改めんとせしむるはくちす身とせしむる

過ハ志リヤミクワの色ハ志リクハたハ人を
 見るハ私チ一物ヨ明クナリ我ク身ヨハ
 私トシ過惡ハカをも志スルヨ身ニシテわれ
 志スルハ愚ナリ志スルヲ改メルハ悪ナリ
 且ハ鏡トシテ明鏡トシテも其ウクトシテ
 ラスル智者トシテもワの身ト志スルハ
 一物ノ故ナリ君子ハ心ヲ正シテ身ヲ正
 テ其過を志スル一其上道有ル人ハ其ウク
 志スル其心ヲ正シテ身ヲ正シテ其過を志スル

是子問の蓋チナリ子路ハ人其過ト若クハ
 志レハヨクコトナク改メク程子の言ク
 子路も亦百世の師ナリトシテ人ヨク
 ナク酒者トシテ亦其過トシテ人ヨク
 ナク志スルコトナク改メク程子の言ク
 善言ゼンゴントシテ其心ヲ正シテ身ヲ正シテ
 其過を志スル一其上道有ル人ハ其ウク
 志スル其心ヲ正シテ身ヲ正シテ其過を志スル

思ふの愚なる事是より甚なる事ありといふと
されし若しもしつゝこそ人の言ふ人聖人
よわくは誰うとさういふ事やてよく改む
い若しこれより大なるいありといつて申す人
乃あつて多き事ありといふ事やていふ人といふ
とまゝといつての事なれど先きからいふ大
から要れし

人の身れよき五あり貌信視聽思たらし貌
とは身のこゝらのうとれと云貌と言と視

と徳ともいふてすて五なりといふ也思ふハ
其本也若し此のこゝ愚れまゝといて邪念と
はこゝれは思ふ思ふといはしめて善と誠
りとする也允け五事といはしめて正しく
それハ身物ともいふ論語よ視と徳と言ふ
徳と禮よりいふ即仁なる事と説むる
右よりつゞぬ事といふ一人の身れよきは
視徳言動の四よといふす四なりといふ皆天
然の別ありてゆゑに道理あり是と禮と

ついで此四のまゝにいつては、
 は皆非禮なりを身への非禮といはし
 るべく非禮ありて物を身へ物をまきく物を
 とい非禮よしてのさうとさういふさう
 くのとくといふ事、皆禮よりさうして人
 欲り私なく天理のつれて本心の徳の
 是即仁なり仁といふ人乃本心の徳也
 天命といふ天道より生れつゝさう福と禍と
 わり又時として不慮よ福あり禍あり福

其貪賤壽夭皆生れつゝさう天命あり
 て分限定むるが道さうして神佛よ福
 つゝいれり身と福ありて後生に福ありつゝい
 求めても生れつゝさう福あり得る人の
 生れけり天の陰陽乃氣とさうさう福あり
 厚薄ありて其ありさうさう福あり
 ありて福あり或いのちたう福あり
 うけり人の貪賤ありて禍あり又いのち
 見えり又時として不慮よ福あり禍あり

あり富貴なり人も河の禱ありを災然る人
も河の福ありとて人乃ちくくあてたり
くした事ハ皆天命也亦法の福也富
貴といハ人力とみく得くくは乃禱と災
然といハ人力とみく免まきくすく人の
富貴も災然也禍福壽命の長短も
のちハ皆陰陽乃變化よりてあり
されつとて定むる天命あり不幸なる
とてんくくふく終へるはくく或富貴財祿

をじさありてるつとく求じりハ愚かりとを
く富貴も災然也禍福皆生れつたは
天命されハ天命に任せてじさかり求じり
くは又くもくくハ天命と安んせさる
ハ愚かり
人力とみく天命と得る道あり士ハ君子の
くてよくはくしれハ君の電とゆて福あり
く農ハ田畑つとめてよくはくまハ秋のかり
くい多くハ工商ハ其の家業とよくつとくまハ

右諸ふも人生じんせいいつとめふありほくむしれいせ
りめいれいつり又俟まち物もの成なりひてんり
又財とつめやされいよく家いへ成なり多おほくはて
しつとに又吉きち生せい成なりよくけしめい命いのちあり
是皆人カとめく天命と得る理あり
天道人の吉の福一悪の禍一是人志もこの
吉悪ふよりて天より福と禍と成なりじつとる理也
是ハ天道の常理なりと云ふは又人乃生せい

質しつによりて富貴多難禍福壽夭あり或は時
よりて不意ふ吉あり皆是陰陽の變化ありて
人のせれつとんより氣成なりくはるる厚薄ありと
厚まき氣成なりけりる人の富貴なりと福あり成なりこ
氣成なりけりる人の多難ありと禍あり又長き氣
とくまきとるの壽く短ひかきとるは天
ハ天の陰陽の氣成なりくまきとめ成なりされいと
ハて天命と云ふ
九美のち皆天命されい人の力及およひ

不幸ちりしも天命をやとんてうねりし
とされしも人事をひきとんて人事と画
ひとつりてはいつてはいつてはいつては
つとめりしは必しありてはいつてはいつ
しつとめりしは必しありてはいつては
をえ痛める者のけりしとてよく保養す
と亦人かと畫とて是人力のつとめり
て天命を擇む理ありひけれりしつと
其といふ天命にまうせて樂しむりしつと

必し然るれりしつと

孝若徒書の樂さひまらむは樂を學ぶ乃
人しつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつと書かよありしつとつとつとつと
まみえりし其教とまらむりし又書とよめり
天地美物乃道理に通しつとつとつとつと
古今のつとつとつとつとつとつとつとつと
いふつと道はつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

一、多しして醒さるめく福ふくの望もちはるごとく
一、道みちを志こころする人を先せん確かくとて砕くだむ
一、人ひとも終はらむ身みと終はらむ事ことを砕くだむ
一、福ふくの望もちはるごとく福ふくを望もちむ人ひとは
一、此こゝ道みちを志こころする人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、少すくく福ふくを望もちむ人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、蓋かきす人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、わく志こころして福ふくを望もちむ人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、身みに不ふなり人ひとと志こころする人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより

一、多しして醒さるめく福ふくの望もちはるごとく
一、道みちを志こころする人を先せん確かくとて砕くだむ
一、人ひとも終はらむ身みと終はらむ事ことを砕くだむ
一、福ふくの望もちはるごとく福ふくを望もちむ人ひとは
一、此こゝ道みちを志こころする人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、少すくく福ふくを望もちむ人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、蓋かきす人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、わく志こころして福ふくを望もちむ人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより
一、身みに不ふなり人ひとと志こころする人ひとは福ふくを望もちむ人ひとより

らば是即仁の理ありて君子の道也人と
かりて君子の道とせむいひて一昔の暮
年く暮ぬけいとして人をふらして人
とあらねば人をあらりて人とせむとい
ても人ぬるをいひて人とせむ是小人乃
道たり人とあらりて小人の道とせむは
ねと一念無故歩む一幸無故行つて天
道よむとせむ理なりとせむとせむと
朋友の向ありてせむいひて面ありて

かげそそいひていひていひていひて
前其過とせむいひて其過をい
人とはあらむいひていひていひてい
さかのさありて不智とせむいひて人
賢とせむいひていひていひていひて
後とせむいひていひていひていひて
一言以不知とせむいひていひてい
いひて

言はばいづれの禍なきのこころをさせばい
やば病なきあよ古語曰病は口より入
禍は口より入り

同官同列の人の私意の争なき人我乃論
ちかくして和睦し相せと人し是亦朋友の
道とて君のこころを家乃乱とひ多くい
居下の争よりおろぬれ一人とま
や一りの才と専ぬまんととれは必同列
を妨ぐるゆへにその身の禍くち

又同職の人ももお争ふるうにそいふ
らに同列とそいふは同職とそいふは是小
人乃つとちり才能若しの相をよけて
とくし一に不能あつたは誰とくは
謙と矜とのこととちり一強いつりたるはなり
甲下とちりぬえ我より才智若しなりても
かこころざる也るりたるりてりの身に自慢
をほほゆるるは是天道神明のちをよけ
治人とちり人れよんとちりあは学問とちり人の

神學講義
三
まの謙とみく基ととく一基といはぬは
ふ土基なり土基とけつされば家と作ら
ぬと一強ありとされぬと云ふすむも地た
して学問の道なき一学問しては蓋は
家と作らんとして基たぬと云ふ一是と云て
強は学問の基とすつ身と云らんと
つ身と云つと云ふ人の言はぬ人の
言はぬ用ひその言はぬとて人は言
ふしと云ふ言はぬと云ふなり天下

の言徳也矜はほろとよむ自謙と云ふ
謙の言也まればいつある才能言はぬ
かろりやうすうはほられぬ其才能と
も言はぬをとりしとて人よみされし
らまじつとありあり自ら自謙して
つはほり人よみし言はぬはつと
ぬ一是日とい長とて不若にとむる
言はぬ一是天下の言也学問と云ふ
神より先け矜の字はつと云ふ一是

第一の事也。一見之と云はれは、学問一ても無
 かりおとらるる久しうて害あり才力のすくじよ
 志しうして已よほらるる也。愚^{つひ}長ば学まざるに
 しくは学問とれり人乃をわくならしめて俗
 人の学問はさくはけお也。師の是をみく
 才子ぬいより初より不らざるのあつりゆり
 とくくは才子の是とみく自しよりあつり
 りゆりもくくはあつり学問とる人の大根
 本わりの極の字なり。大禁戒あり。初の字也。

初る学問とる人のけをえよ。必先は禁戒と
 守り根本とをそく学問とはくじし。くを
 くはの身おるる人とそくはより大なる愚
 かりおらるるはる人の必んぬそく自^{みづか}是
 ととれり必人と非くす是等のあつり
 とすくは^け徳と云ふ銘して自しより
 ちる若くはちりともわくはるるあつり
 らと是身おほるる也。人の若ぬはか
 ころもあつりてあつり。是人の若く

家也とのもりのもさうらひしてあつた早くはじむ
是りの身の益也人のさかひあつたさうらひ
これ人との善也さうらひの道也是れ君子の徳
節義との君親きんのさうらひ義理と守りて命と
つらんとるは云武士乃戰場せんぢうのさうらひ
これ命とわかれはさうらひ及んば福とわ
かして君親のさうらひと命とわかれ君親のさうらひ
と敬ふはさうらひ或は婦人の夫はさうらひ死を
わかれて敬ふはさうらひやこれ類を節義と

共ふと云是れ敬ふはさうらひと命とわかれ義理
とさうらひ也凡男女ともに弟の才徳さうらひ
くも節義はさうらひ其餘のよははさうらひ
さうらひ

利にあつて才力さうらひと命とわかれさうらひ
かこれ人よ大體よさうらひと命とわかれ
思ふさうらひあり又辨わきまボはさうらひ才力さうらひ人よ
つらして其を明らうらひと大體よさうらひと
人よさうらひ人をばさうらひ人よ用ふさうらひの徳とく乃

うはりきこ言のこしつたよはよまふれ
よく其公のゆふ素とくし和明くまれの
ゆくく和くまれの和明くちりぬり
和くまそ和明くちりなる人あり和く
えし和明くちりなる人ありましくいあこ
火のあし和くくく物給てくま
まはましく和くくすねて明くちり火の
和明くちりなる物給てくましくの和
くくくくくくくくくく人の和明くちりなるも

くはなれし其貌にりて人とてあま
つら

井とて言ふこのましくとあふ給ひ君の志
く親よ不孝よ國はとわくそゆまれと人
ふくしらましくまれ身とあやしくてけ
しはとましくその家とちり身をさしる人
はたしとのあそや和りちりあてあふたうあせ
あふたゆ人言乃終なるたすもあのみこと
くくくくくくくくくくくくくくくくく

かくして水火風砂をんじと井に砂ら入火
 ぬこひ入うこく又音の砂よくまひのさう
 さうは多し人の三歳より小児よ薬と金と
 をこ病よつゝ砂砂れてさうやんふ必薬と
 けうそて金銀とつゝ一是知多くして金乃
 考うくちう事と志くこれいかり

凡百の事皆皆知ありよりけりれ愚うらより
 するはあし知へ人身の大き也さうさう
 しんくう者いさふれもつ年さきもつりれと

都るも只知砂砂して一知砂砂してして
 いくんやや学問とさふ志くいかり学問
 わくこれい知砂砂してさ中さう

学問の古乃至賢と師とて五常とをよた
 むらみ偏と身よけひ決り天下万物の
 理とまひあら今このされ通してりるを乃知
 をひく道ちり凡りうくれり年さき小養
 すく皆師あり程ちたありてはらあまらひ久
 志くして後よ其のさ砂よくさひ得るさ

人の世にんをわりの身とせむらん人となむとせむ
 莫大の道理とせむるもの師とて學問
 なくしてはつたふじもたれつたふたふたつたふた
 りんそりたるはるさといふる人となむとせむ
 して其是非をたふさむる人となむとせむ
 といふ一乃聖人じまいたる人となむとせむ
 とも教師を求むと道と問ひまひてむ
 いふんや今の人の知は古人より及びぬ事なり
 聖賢の書多くし知らばはらてよむとせむ

人の世とてむとせむとてむとせむとてむとせむと
 ちり知れむとてむとせむとてむとせむと
 といふ是よりとせむとてむとせむとてむとせむと
 天下の人の教のよむとせむとてむとせむと
 てまひらむとてむとせむとてむとせむと

學問とて人の先志をたふとてむとせむとてむとせむと
 君子とて人の事とはひのむとてむとせむとてむとせむと
 といふはるむとてむとせむとてむとせむとてむとせむと
 といふり念むとてむとせむとてむとせむとてむとせむと

如くたつて一君子としての徳のむねなる人をとて君
 子とある道のいふは好むは徳のむねとて本を
 といふは好むまゝこれの本とて其のよきよき書と
 といふはよきまゝて道に好むまゝとて其のむねなる本
 とは好むは好むまゝありんた学問とてそのまゝの道
 を好むは好むは好むまゝといふは好むまゝといふは
 志とてよきまゝの志とてよきまゝといふは好むまゝの
 学問といふは好むは好むまゝといふは好むまゝといふは
 好むは好むまゝの学問といふは好むまゝといふは好むまゝ

如くたつて一君子としての徳のむねなる人をとて君
 子とある道のいふは好むは徳のむねとて本を
 といふは好むまゝこれの本とて其のよきよき書と
 といふはよきまゝて道に好むまゝとて其のむねなる本
 とは好むは好むまゝありんた学問とてそのまゝの道
 を好むは好むは好むまゝといふは好むまゝといふは
 志とてよきまゝの志とてよきまゝといふは好むまゝの
 学問といふは好むは好むまゝといふは好むまゝといふは
 好むは好むまゝの学問といふは好むまゝといふは好むまゝ

其の學問よりいかに美なる學問の徳行とはいは
 じら奉文學といふよりもより厚くとも
 學問の道なきはぬれもなきなり一且明師を友
 を求りて學術の道にまぎらざる一師友の
 人ありければ學術はとらわれぬにまいて
 も蓋す一是れ第一なり一はまじきも初より
 心の志はるるなりてより身に才あるを
 はらひつらばれと見し一人と非とも人
 々の志はるる事も志しむるなりては

とありて者あり一君子の名は徳と學より一
 りるもよも小人の事なり一はくは
 學問の只若くは道なりとありて常に若
 くは若く一且に若くありて一其上
 道理をぬくつら身とせし一道理をぬて
 人とせしつら古はよひりて人をせしつら
 らんとあはれよちつらて困はよそひくつら



